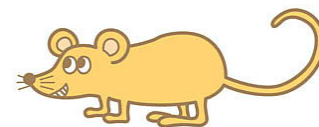


【気になる話題 ～動物からうつる身近な感染症について③～】

〈ネズミからうつる病気〉

ネズミはヒトにとって身近な野生哺乳類の一つです。食中毒の原因となるサルモネラ菌を運んだり、ノミを体につけて感染症を媒介したり、衛生上問題のある動物です。ネズミからうつる病気として、“ペスト”、“腎症候性出血熱”などがあります。



・ペスト

ペスト菌による細菌感染症です。本来、ネズミなどのげっ歯類の感染症でノミやエアロゾルを介してヒトに感染します。症状や感染経路により「腺ペスト」、「敗血症型ペスト」および「肺ペスト」に分けられます。いずれも強い全身症状を示し、敗血症や肺炎で死にいたることもあります。日本には1899年にはじめて海外から輸入され流行もみられましたが、ネズミ駆除などの防御対策が功を奏し、1926年以降ペスト患者の報告はありません。とはいえ、世界には野生のげっ歯類にペストが持続的に感染している地域があり、開発にともないヒトへの感染機会が増加しています。ペストにはストレプトマイシンなどの抗菌薬がよく効き、早期に治療すれば回復可能です。また、ワクチンがあるので感染リスクのあるヒトは接種を受けることが勧められています。

・腎症候性出血熱

ハンタウイルスによっておこる病気です。この病気は風土病的なものでアジア・ユーラシア大陸に広く分布し、その地域に生息するげっ歯類、主に野生ネズミがウイルスを保有しています。感染しているネズミに症状はありませんが、尿などからウイルスを放出します。ネズミに咬まれたり、尿がヒトの傷口につくなどを原因としてハンタウイルスがヒトに侵入し、感染が成立します。ヒトからヒトへの感染はありません。日本では、1960年から70年代に大阪梅田地区で「梅田奇病」といわれた地域的な流行がありました。また、港湾地区のドブネズミは高率に感染していることが知られており注意が必要です。軽症例はかぜに似た症状で、蛋白尿や血尿がみられる程度ですが、重症例では血圧の低下、出血、腎不全などにより死亡することもあります。



感染予防の注意点

- ・ ペットのネズミはゲージなどに入れ、野生ネズミと接触させない。
- ・ 野生ネズミを駆除する。
- ・ 食品や使用後の調理器具は放置しない。
- ・ ペスト発生地域への渡航前にワクチンを接種する。

(感染症情報センター 記)